

グリーン四国

No.1244
2023年
11月号

シカの食害から守れ! 三嶺の森の再生を目指した ボランティア活動

〔詳細は2頁〕



吉野川源流モニュメント

高知県の町寺川 白猪谷山国有林

目次

・シカの食害から守れ！三嶺の森の再生を目指したボランティア活動	2
・森林整備計画の構想を学ぶ	3
・「農林業体験インターンシップ」千本山で登山学習	4
・令和5年度 林道維持活動に若手職員等が集合	5
・高知労働基準監督署等との連携で請負災害の防止を確認	6
・文書の書き方講座を開催	7
・狩猟フェスタ2023開催	8
・秋の「緑の募金」街頭活動 皆さんの善意で森林づくり	9
・大島小学校で森林環境教育を実施	10
・kochi 森の県民座談会（幡多地区）に参加	11
・ツキヨタケ	11
・立地条件から樹木成長の良否を予測する 一昔と今の取り組み	12
・自然再生に向けて	13
・四国森林管理局・署（所）問い合わせ先	14



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2052
FAX 088-821-4834
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

シカの食害から守れ！ 三嶺の森の再生を 目指したボランティア活動

〈高知中部森林管理署〉

9月30日、「三嶺の森をまもるみんなの会」の主催により、高知中部森林管理署管内の国有林、みやびの丘周辺（別府山53林班外）において、植生回復と森林の再生を目的に、ボランティアによるシカ食害防護ネットの設置作業を実施しました。

今回で38回目を迎えたこのボランティアは、三嶺系の山を中心に活動しており、平成19年から続く息の長い活動で、毎年幅広い世代の方々に参加していただいています。今回も環境省や高知県、香美市、香南市、南国市の職員、高知工科大学生を含めた一般ボランティアの方々と、四国森林管理局・高知中部森林管理署職員を合わせ、約90名の方に協力していただきました。



当日はあいにくの雨模様で開催自体も危ぶまれましたが、参加者の熱意が伝わったのか、集合場所に全員が揃った頃には雨も止み、無事開会式を開くことが出来ました。

初めに吉良署長から開会の挨拶と安全対策についての説明が行われ、その後5班に分かれて、各班長の指示に基づき防護ネットの材料を持って作業地へ向かいました。

場所は登山口から歩いて15分程度の場所で急峻な地形に加え、濃霧と雨上がりで地面がぬかるんだ中での作業だったため、いつも以上に声掛けをしながら慎重に作業を進めていきました。14時過ぎには各班長の適格な指示と参加者のスムーズな連携により、予定していた約670mのシカ食害防護ネットを無事張り終えることができました。

参加者からは「靴はぐちよぐちよだけど、達成感があった」、「少しでも以前のような姿に戻るお手伝いできたのならよかった」等の声を聞くことができ、毎年地道に続けているこの活動が、多くの参加者に支えられているということを確認しました。



近年、シカの食害は大きな問題となっており、当日作業を行った箇所でも下草が少なく、稚樹が育っていない状態でした。一方で以前防護ネットを張った箇所を見

ると下層植生が生え、少しずつ生い茂っていることが確認でき、みやびの丘の植生回復の効果が始めていると感じました。今後多くの方々に協力をお願いしながら、シカの食害から三嶺の森を守る活動を続けていきたいと思えます。



森林整備計画の構想を学ぶ

〈森林技術・支援センター〉

10月17日～20日、林業成長産業化構想技術者育成研修の四国ブロック研修が開催されました。

この研修は、ICT等の最新技術を活用して森林資源や地形の把握を行い、林道整備計画や地域の特性を考慮した森林整備計画を検討・作成し、林業成長産業化に資する技術力の向上を目的とするものです。中央研修とブロック研修の2回に構成されており、3班に分かれてグループワーク形式で実施されました。

四国ブロック研修は、高知県中土佐町にある新道山国有林と隣接する民有林を演習地として、およそ1000haの森林を10～20年先を視野に入れた全体構想を踏まえて、林業専用道計画（10年分）と森林整備計画（5年分）の構想をとりまとめ、研修最終日に中土佐町の林務担当者にプレゼンテーションを行う設定で実施されました。

受講生は鳥取県職員1名、香川県職員1名、津野町職員2名、徳島水

源林整備事務所職員1名、民間林業事業者等2名、国有林職員4名の合計11名が研修を受講しました。

初日は、外部講師等により演習地等の説明やQGIS（地理情報システム）、FRD（林道・路網の設計ソフト）等のツールを使用して路線を検討し、「地域特性に応じた森づくりの構想」の講義を受けました。



演習地の情報を QGIS で確認



UAV の映像から林道路線を確認

2日目の午前中は、中土佐町の新道山国有林で「ドローンによる森林資源の調査」を行い、ドローンを飛行させ、研修フィールド団地の森林資源状況、路網設置の可否等を確認しました。また、森林整備課橋口専門官から、林道の勾配、昨年工事実施箇所について、制限時間をオーバーすることなく丁寧なミニ講義をいただきました。午後からは中土佐町の喜代須山国有林で「森づくりの検討」を行い、現在の林況を把握して森林の混み合い度を評価し、周囲の状況や森林の機能等を考慮して各班で今後の森づくりについて検討した結果を発表しました。



森づくり構想発表の様子

3日目は、最終日のプレゼンテーションに向けて、演習地の林業専用道計画、森林整備計画及び木材生産計画（5年分）をQGISやFRD等を使用して、各班で構想を作成しました。

最終日は、苦勞して作成した演習地の林道・森林整備計画等の構想について発表を行い、構想に対して活発なディスカッションが行われました。発表については各班それぞれの個性がでた素晴らしいプレゼンテーションとなりました。

受講生からは「路網の配置計画は初めてだったので勉強になった」、「ドローンの映像と地図が合うよう訓練をして普段から活用したい」

「QGISの操作方法を学ぶことができた」、「班内で議論するよりも資料づくりに追われてしまった」、「時間の余裕がない中、プレゼン資料の作成は厳しかった」等の感想が聞かれるなど、有意義な研修となった反面、進行側の工夫も考えさせられる研修となりました。

最後に、この研修から学んだことや、感じたことを地域林業の成長産業化に活かして頂きますよう、受講生の今後の「活躍」を期待しています。



「農林業体験インターンシップ」千本山で登山学習 幡多農業高等学校生が参加

〈安芸森林管理署〉

高知県立幡多農業高等学校では、毎年グリーン環境科1年生が高知県内で、2日間の日程で、農林業体験インターンシップを行っており、今年は2日目の10月20日に安芸森林管理管内の千本山で登山学習を実施しました。

当日は学生15名、教職員2名、当署からは4名の職員が参加し、千本山の名所を巡りながら展望台を目指します。



橋の大杉

はじめに、千本山に設定している保護林の概要、魚梁瀬地区の国有林の特徴等を説明、登山時の注意点を説明し登山を開始しました。登山道の入り口にある「千年橋」を渡り現れたのは「森の巨人たち百選」に選ばれている「橋の大杉」が参加者を出迎えます。

橋の大杉と言えば林齢300年以上、樹高54m、幹周り680cmにもなる千本山の顔でもあり、地域統括森林官からの説明を学生たちは真剣に聞いていました。

今年は例年にならない暖かい気候の中、学生たちは汗をかきながらも一生懸命に歩き、道中の親子杉、たこ足杉、鉢巻落としといった名所の説明を熱心に聞き入り、見学していました。下山後は、「普段見ることできない、天然林を見ることができてよかった」等の意見があり学生たちには良い経験になったと思います。

当署では、これからも森林教室等

の実施を通じて森林・林業の普及活動や水と緑の大切さなどのPR活動に取り組んで行きたいと考えています。



鉢巻落とし到着



令和5年度林道維持活動に若手職員等が集合

〈高知中部森林管理署〉

10月16日、高知中部署管内の猪野々林道、宇筒舞林道において四国森林管理局19名、高知中部署22名、計41名で林道維持活動を実施しました。

今回の目的は、平日頃よりきめ細やかな修繕を実施する事が林道の維持や安全面で重要であり「まず職員でクワを持つ！」という目的のもとに企画したものです。



吉良署長から「林道の現状と日頃からの横断溝の掃除や水切り等の適切なメンテナンスの重要性及び今後の林道維持のあり方等」についての説明と開会の挨拶を皮切りに、猪野々林道チーム、宇筒舞林道チームに分かれて現地へと向かいました。



当日は、心地よい秋風の吹く中、大量の崩土や倒木によりふさがった林道の車道確保、複数箇所土砂で詰まった横断溝内の土砂取り除きと

落石除去の作業をそれぞれがクワやツルハシなどを手に作業を行うこととしました。



はじめは、大量の崩土を前に「本当にこれをやるの?」「本当にできるの?」「大丈夫?」という声が多く聞こえていましたが、いざ道具を手にした瞬間目の色が変わり無我夢中で作業を行い、終盤には班長が「休憩しましょう」と声をかけても「もう少しだから、あとちょっとで終わる、最後までやってしまおう」との勢いで作業が続き予定していた箇所より多くを整備することができました。

振り返ると、作業実施後の林道は普通車両が安全に通行できるまで整備され「今日は本当にやって良かった、安心して通ることができ、ありがとう」と、管轄する森林官等からもお礼と感謝の言葉が聞こえてきました。

閉会の挨拶で、宮沢森林整備部長

から「職員が林道維持の重要性に改めて気付く良い機会になったと思います」と講評をいただきました。



今後もこういった活動や意識が四国管内各署へ広がっていくことと、林道での交通事故撲滅を願うとともに、職員一人一人が現場へ出向く際は、必ずクワ等を車に積み込み、日頃からの適切なメンテナンスを心がけ取り組んでまいりたいと思います。

高知労働基準監督署等との連携で請負災害の防止を確認

〈高知中部森林管理署〉

10月24日、高知中部森林管理署管内で「治山工事の現場パトロール」と、「請負事業に係る労働災害防止についての連絡協議会」を高知労働基準監督署2名、高知水源林整備事務所2名、嶺北森林管理署4名、当署5名の参加により開催しました。

この会議は、高知労働基準監督署と嶺北森林管理署及び高知中部森林管理署等が毎年合同で請負事業体への点検を主体として実施しているものです。



午前は、復旧治山工事「アンカー工」の現地へモノレールを使って移動し安全パトロールを実施しました。当日の作業内容や工事の工法等について、現場代理人及び担当職員から説明を行った後、全体の作業状況の確認や、点検を実施し気づいた点などについて意見交換を行いました。

意見交換では高知労働基準監督署から、

「足場に大型の発電機が設置されているが、通路が狭くなっているのので設置個所をどちらかにずらして作業員が安全に通行できるように改善すること」等の指摘があり、

当署担当職員からは、「監督業務で危険な作業状態や環境について常に注意を払っていましたが、いつも同じ目で見ることが気づかないことがあることが分かり、現地でのパト

ロールの重要性についても改めて認識することができました」との意見があり、今後の監督業務に生かしたいとのことでした。

午後は、当署の会議室において労働災害の現状について意見交換を行いました。

高知労働基準監督署からは、令和5年4月1日から令和10年3月31日までの高知労働局第14次労働災害防止計画についてや、令和5年度の労働災害の発生状況は特に土木工事業と林業の災害が増加しているとの説明がありました。

最後に、嶺北森林管理の榛田署長から「本日のパトロールや意見交換を踏まえ改善できることは直ぐに取り入れ不安全な状態をなくしていくよう努力するとともに、今後も関係機関との連携・協力により労働災害の撲滅に努力を惜しまないようにして参りたい」との挨拶で閉会しました。



文書の書き方講座を開催 語彙力つけて「文書力」のスキルをアップするために

〈高知中部森林管理署〉

10月23日、高知新聞社コンテンツ事業局メディア企画部森本裕文様を講師に招き、当署職員のほか局総務課・企画調整課・技術普及課及び嶺北森林管理署の職員総勢28名が参加し、「文書の書き方」講座を受講しました。



これは、職員が日頃業務で作成する文書やイベント及び現地検討会の情報発信「グリーン四国への記事投稿」の基本を勉強し、文書力のスキルアップを図り今後の業務に生かすことを目的に開催しました。始まりは、吉良署長と報道関係者との情報交換からこの企画がスタートし、当署からの依頼を森本様が快諾いただき当日を迎えることができました。

講座は、午後からの2時間で睡魔が襲う時間帯ではありませんでしたが、直ぐに話に引き込まれ参加者全員が夢中で話に耳を傾けていました。講座には、ワークシートが盛り込まれており、全員が頭をフル回転し作業にも取り組みました。

そのひとつは、グリーン四国への「イベント」記事執筆を前提として「誰に（相手）」・「何のため（どうしてほしい）」に書くのかとの問いに、1分〜2分程度で考えて記入していく作業で大変でした。

これは、グリーン四国へ記事を掲載し、誰に見てもらい、何を伝えるのかを考え、取り掛かることで、書き方に迷いをなくしブレずに執筆ができるようになることでした。

これまで、漫然と当日の出来事を思いだしながら「だから」と作成していたことに気づかされ、とても参考になりました。

また、文章を書く力は、「読書の量」で語彙力があがり、使える言葉の量が格段にあがるもおっしゃっていました。

2時間という講座時間もアツという間に過ぎさりもう少し時間を取っていればとも感じました。

プロローグ 文章力向上のポイント



文章力は「読書量」に比例する
社会人の皆さんは「読量」に比例

この講座で、参加職員の文章力は間違いなくレベルアップしたと思います。記事はイベント前にほぼ完成形を描き、写真は狙ってとれば良いとのこと。今後はこのポイントを取り入れ、執筆もしっかりと行いたいと思います。



狩猟フェスタ2023開催

〈森林技術・支援センター〉

10月29日、高知県主催の第三回狩猟フェスタが高知ちばさんセンターで開催されました。会場には1日を通して親子連れや一般客など約1200人を超える来場客が訪れました。

会場内には企業・団体から、獣員等に関する出展や、シカやイノシシ肉のジビエ料理コーナー等、33ブースの出展がありました。また、高知県猟友会では狩猟相談をはじめ、模擬銃やくくりわな等の獣具の実演が行われました。

その他の催しは「狩猟とせいかつこ」をテーマに岐阜県在住のお母さんハントーの狩猟を通じた日常生活の講演や、「狩猟の魅力伝える」トークセッション、アンデス音楽のミニコンサートなど今年も盛りだくさんのイベントが行われました。

当森林技術・支援センターのブースでは、開発した小型囲いわな「こじゃんと1号」の紹介をはじめ、ノウサギ用の箱わなの展示のほか、森林環境等をテーマとした絵本の配布や四国のシカ生息状況などのパネル

の展示、自動撮影カメラのシカやノウサギの映像をモニターで紹介しました。また、こうしたイベントで活躍するシカモニュメントの通称アケミちゃんも子供たちの人気者となっていました。

当センターの展示場では「こじゃんと1号」の前で足を止める来場客には、職員から、わなの説明や国有林の獣害の現状などについて説明を行い、来場客からは「苗木の食害現状などを初めて知った」「野生鳥獣による農作物の被害に困っている」などの声を伺いました。

狩猟そのものの持つ魅力やジビエ料理など一般の方の関心が高まるなか、主催した高知県や高知県猟友会ではこうしたイベントを通じて農林業等への被害拡大など現状を踏まえながら、狩猟に関心を持って、狩猟の担い手になっていただくことを目指して取り組まれています。

国有林もこうしたイベントを通じて、今後も社会的役割の一端を担って行きたいと思えます。



アケミちゃん

秋の「緑の募金」街頭活動 皆さんの善意で森林づくり

〈局技術普及課〉

10月7日、公益社団法人高知県森と緑の会の主催による秋の「緑の募金街頭活動」が、高知市の中央公園及びひろめ市場前で行われました。この街頭募金活動は、例年、春と秋の緑の募金強化期間に実施されており、同日に中央公園で開催された都市緑化祭の会場もお借りして行われました。



出発式では、高知県森と緑の会理事長からの開会挨拶のあと、高知市副市長が祝辞を述べられました。その後、ボランティアの皆さんに当局職員も加わり募金活動を行いました。三連休の初日で、イベントも開催されていたこともあり、多くの皆様から心のこもった募金が集まりました。

ご協力いただいた募金が、高知県

の森林整備や緑化推進、子ども達への森林環境教育、そして木の文化の普及活動の一助になることを期待します。



大島小学校で森林環境教育を実施

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

○概要

宿毛市立大島小学校から、昨年度同様に森林・木工教室実施要請を受け、9月26日に3・4年生33名、9月29日に1・2年生25名、計58名を対象にした森林環境教育（森林・木工教室）を実施しました。

○木工教室（3・4年生）

ヒノキのムク板を使用し「ハッピー小箱」の制作を行いました。ヒノキの香りや木製品特有の感覚に触れてもらいつつ「私たちの生活のあらゆる場面で欠かせない木や木材ですが、皆さんの身の回りで木材が使われているものはどんなものがありますか？」と問いかけ、鉛筆、教科書、ノート、トイレトーパーなど、身近で毎日触れている多くのものが木材から作られていることを学習してもらいました。

最後に各自が自由な発想で小箱に貝殻や木の実、木片、小枝などで飾り付けをして「ハッピー小箱」を完成させました。

○森林教室（3・4年生）

また、地域で地球温暖化防止の取組を推進しているグループの「うみのこども」に協力していただき、「森のやさしさについて」と題して、森林教室を実施していただきました。

「うみのこども」の村上さんから「まず皆さん目をつぶり森の中にある状態を想像してください。」と児童達に話しかけつつ、空気をきれいにする、水をつくる、生き物のすみにする、災害を防ぐなどの森のはたらきの説明がありました。森と人間とあらゆる生き物など、お互いが助け合い、たくさんの優しさが一つになり、大きな森という自然が出来ているというわかりやすい説明でした。

○森林教室（1・2年生）

「雨水のぼうけん」という教材を使い、森林の保水力や水の浄化作用について学習しました。

○木工教室（1・2年生）

その後は、木工教室となり、センター職員が作成・準備した製作キット

（四万十市の黒尊山国有林で調達したヤマザクラやヒメシヤラの小枝や輪切りのパーツ）を使い、各パーツを組み合わせて、板にクロモジ等で枠木を、小枝や輪切りの他木片を重ねた装飾により、カブトムシやクワガタムシの壁掛けや置物を完成させました。

○その後

実施後にいただいた教職員アンケートや児童達の感想文には、「とても楽しかった。またいろいろな物を木で作りたい。「森を大切にしたいと思った。」「山のおかげで水が飲めることがわかった。」等と森林に関心をもった内容が書かれていました。

○おわりに

今回の森林環境教育を通して、友達と一緒に木を利用して小物を作ったことが楽しい思い出となり、またこの作品が各家庭で小物入れとして使われ、リビングや玄関に飾られることで、木材に親しみを感じ、自然と木材の良さを再認識してもらえらるものと思います。

当センターでは、このように学校の要請に応じた森林環境教育の出席講座を通して、森林への理解の向上や木工工作・クラフト作りを通じて木育への取組を展開しています。



作品完成したよ



カブトムシ、クワガタムシ製作の様子（1、2年生）



うみのこども、村上さんのお話の様子（3、4年生）

kochi 森の県民座談会（幡多地区）に参加

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

10月1日、高知県林業環境政策課が主催するkochi 森の県民座談会が黒潮町のふるさと総合センターで開催され、今村所長と職員1名が参加しました。この座談会は、森林環境税の活用方法を検討する会であり、事務局から当センターに対して、森林環境分野での取り組みについて県民代表として話してほしいと依頼がありました。



事例発表をする今村所長

所長から当センターが、①四万十川流域の国有林野を中心にNPO等が行う自然再生、生物多様性保全等

の活動や、教育関係者が行う森林環境教育等に対する技術的指導その他の支援等に取り組んでいること、②令和4年度に実施した山の学習支援事業における5校の取組事例（上川口小学校、中村小学校、西土佐小学校、西土佐中学校、山奈小学校）の発表を行いました。

その後、座談会の参加者30名が、「鳥獣被害対策・森林ボランティア」、「森林環境学習」、「木材利用」、「林業の担い手等」の4テーマ毎に7〜8人程度のグループ討議を行うこととなり、当センターは「森林環境学習」、「林業の担い手等」の分野にそれぞれ参加しました。

全体のファシリテーターの進行の下、問題解決手法によるグループ討議として行われ、まず参加者一人ひとりが、①森林環境税のイメージ、②このテーマを選んだワケ、③税金の活かし方の3つの項目について、付箋紙に自分の意見をそれぞれ記入し、書記担当者が模造紙に貼り付け

ました。その後、グループの代表者が全員の意見集約を行い、各テーマ毎に意見発表が行われました。所長も森林環境学習グループの代表として発表を行い、有意義に会を終えることが出来ました。

なお、森の県民座談会の事例発表の様子は、当日参加できなかった方のためにYouTubeにて発信される予定とのことです。

森林環境税制度の活用に向けた意見交換等の場でしたが、当センターの活動を広く知ってもらう意味でも良い機会になったと考えています。



グループ討議の結果を意見発表する様子

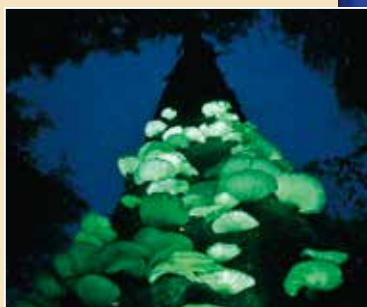
ツキヨタケ

徳島県那賀郡那賀町にある、剣山スーパー林道添いの釜ヶ谷国有林では夏から秋になると、ブナの朽木にツキヨタケが群れ咲きます。

夜になり闇の夜でほのかに光り幻想的で壮観な光景になります。

美味しそうなキノコですが実は毒キノコで食べられません。

徳島森林管理署 丸田 泰史



立地条件から樹木成長の良否を予測する — 昔と今の取り組み —

森林総合研究所四国支所森林生態系変動研究グループ

主任研究員 細川 奈々枝

みなさん、新しく木を植えようという時、どのようにして樹種を決めて、そして将来の施業計画を思い描いていますか？「ある場所に木を植える」とどのように成長するのか？この問いは昔からありますが、今私達が取り組んでいる研究テーマでもある、古くて新しい問題です。私は土壌や立地条件を調べることで、その場所にあった樹種を選択したり、将来の樹木成長量の予測が可能になったりすると考え、この問いに取り組んでいます。

国有林では、明治時代から施業方針をたてるための森林調査項目のひとつとして、土壌調査が条例として定められていました。当時は地形や土性、地質を評価していたようです。その後、調査項目について改良が重ねられ、大正時代初期には気象、標高、傾斜、土壌深度など、より多岐にわたるようになりました。昭和初期には土壌調査が活発になり、昭和9年にはスギ・ヒノキの適地調査が始まりました。この調査では、土壌を実験室に持ち帰って理化学性（粘土量、カルシウム量など）を測定することで土壌の良し悪しを評価していました。一方で、土壌を野外で観察することで、樹木の成長の良否や適した植生が判断できるのではないかとという考え方もあり、土壌の形態（色や土壌構造、層の厚さなど）についての研究が進められました。この考え方によって作成されたのが土壌型（林野土壌分類）で、最大の特徴は土壌の乾湿状態によって段階づけ（A～F）していることです。この土壌型は現在でも用いられています。戦争の混乱期を

挟んで、上記のような土壌の理化学性や土壌型と樹木成長の関係がまとまってきたのが昭和30年頃です。この頃、植栽木の成長の良否をある林齢の樹高で表す地位指数によって評価するようになりました。そして、統計学の発展とともに、地位指数を多くの変数から予測することが可能になりました（当時の最先端は数量化と呼ばれる手法でした）。そこで国有林では、昭和40年から経営計画の一環として地位指数調査を始めました。昭和42年には、調査の結果作られた予測モデルを使った地位級（地位指数から材積を推定し等級付けした指標）区分の方法が提案されました。地位級は現在と将来について評価し、直接測定できる場合は平均樹高と林齢から求めます。樹高測定の難しい幼齢林の現在の地位指数や無立木地の将来の地位指数は、先述の予測モデルを使って推定します。

現在、戦後に植栽された人工林が成熟期を迎えています。これら木材資源の利用の際には、伐採後の植林や将来計画がセットになります。意思決定には、シナリオによるシミュレーションなどの不確実な未来に対する思考実験が有用です。これらには、科学的な手法に基づいて行った実験や調査のデータが欠かせません。近年の研究から、地形を表す指数（例えば地形湿潤指数）と地位指数の間には高い相関があることが分かってきました。しかし地形の違いは、日射量、土壌の乾湿状態、土壌の厚さなど、多くの環境条件の違いを伴うため、シナリオやシミュレーションのためにはもう少し詳しいメカニズムを



土壌断面



土壌サンプル

明らかにする必要があります。今年度から、立地環境から樹木成長の良否を現代の知識や技術で予測するための調査研究を始めています。これまでの数々の研究から、立地条件は地形、地質、標高、土壤条件（礫の量、土壤の深さなど）、土壤の理化性などから総合的に検討する必要がありますと考えています。また、どの要因がより強く影響するかは地域によって異なる予想されるため、いくつかの地域で調査をする必要もあるでしょう。さらには、航空レーザ測量による資源量調査やGISによるデータ管理が主流となってきた近年、これら技術とのリンクを意識した調査方法も必要となってきます。色々と課題もありますが、先人たちの苦勞に敬意を示しながら、冒頭の問いに対する現代の答えを出していきたいと思っております。

■参考文献

日本の森林土壤 農林水産省林野庁
監修 昭和58年発行

「地域森林計画及び国有林の地域別の森林計画に関する事務の取扱いの運用について」

平成12年5月8日12林野計第188号
林野庁長官通知、最終改正令和3年9月30日3林整計第296号

自然再生に向けて

四万十川森林ふれあい推進センター

所長 今村 英治

本年4月に四万十川森林ふれあい推進センター所長として着任しました今村です。

四万十川森林ふれあい推進センターでの勤務は初めてですが、四万十川流域を管轄する四万十森林管理署や旧宇和島営林署（現在の愛媛森林管理署）の勤務経験があり、これまでの経験を活かしてふれあいセンターの業務に取り組んでいます。さて、当センターの名称にもあります四万十川は清流として有名ですが、ここでいう清流とはその名とおり清らかな流れ＝水質が綺麗ではないようです。

そこで、清流四万十川たる所以について少しお話しさせていただきます。四万十川は全長19.6kmの延長で、源流点の津野町の不入山から、中土佐町、四万十町に入り太平洋に接する黒潮町に近づき、また山に戻るように支流と合流し蛇行に蛇行を繰り返して海へ注ぐという変化に富んだ川です。四万十川はこのように

蛇行を繰り返しながら勾配を緩く保っているため、河岸にも人工構造物がなく、昔ながらの豊かな自然が残っています。

また、過去には、天然繁殖魚数の94種、藻類収穫量、アユの河川延長1kmあたりの漁獲量が全国1位、川に住む生物の種類200種以上など、魚等の生物の居住環境がとて優れている川で、古くから人の関わりが深くありました。

「高知県四万十川清流調査手引書」にも、このように四万十川は昔の川の姿をとどめていて、たくさんの生き物がいて、人々が川と深く関わりを持ちながら、実際に川からの恵みを受けて生活していること、これが清流と呼ばれる所以だと言われています。

一方で、最近では、増えすぎたシカ等の食害により森林生態系への悪影響が出ています。

四万十川森林ふれあい推進センターでは、職員3名であるが故の機動力を活かし、この自然豊かな清流四万十川を後世に残していくため、森林環境教育の一環として、児童生徒や地元の皆様と一緒に自然再生や環境保全の取組をしていきたと考えています。引き続きのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



シカ防護ネット破損



シカネット修繕

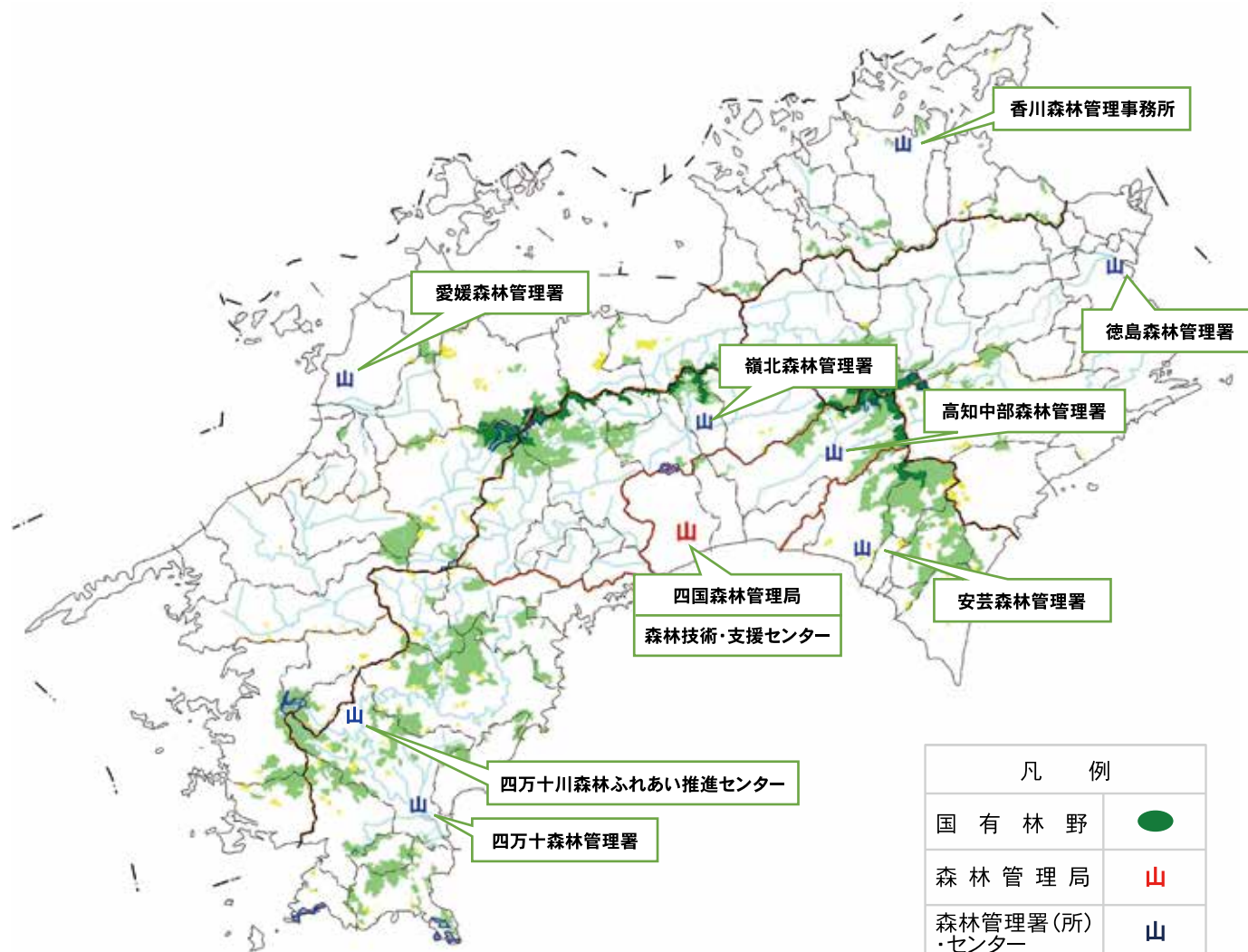


松野東小学校（土壌浸透実験）



四国森林管理局・署(所)

問い合わせ先



名 称	郵便番号	住 所	T E L	F A X
四 国 森 林 管 理 局	〒780-8528	高知県高知市丸ノ内 1-3-30	088-821-2210	088-821-4834
森 林 技 術 ・ 支 援 セ ン タ ー			088-821-2250	088-821-4839
四 万 十 川 森 林 ふ れ あ い 推 進 セ ン タ ー	〒787-1601	高知県四万十市西土佐西ヶ方586-2	0880-31-6030	0880-31-6031
徳 島 森 林 管 理 署	〒771-0117	徳島県徳島市川内町鶴島 239-1	088-637-1230	088-666-1818
愛 媛 森 林 管 理 署	〒791-8023	愛媛県松山市朝美 2-6-32	089-924-0550	089-924-0598
四 万 十 森 林 管 理 署	〒787-0003	高知県四万十市中村丸の内 1707-34	0880-34-3155	0880-35-5310
嶺 北 森 林 管 理 署	〒781-3601	高知県長岡郡本山町本山 850	0887-76-2110	0887-76-3886
高 知 中 部 森 林 管 理 署	〒781-4401	高知県香美市物部町大栃 1539	0887-58-3131	0887-58-2449
安 芸 森 林 管 理 署	〒784-0044	高知県安芸市川北乙 1773-6	0887-34-3145	0887-34-3147
香 川 森 林 管 理 事 務 所	〒761-8064	香川県高松市上之町 2-8-26	087-866-6622	087-867-3043